



六中だより

米沢市立第六中学校

第 5 号

令和2年8月19日

充実の2学期に！！

8月18日から2学期がスタートしました。爽やかなあいさつとともに登校する生徒の姿に、2学期の更なる成長を期待するところです。保護者並びに地域の皆様におかれましては、1学期に引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2学期始業式 式辞

10日間の夏休みが終わり、今日から2学期がスタートします。久しぶりに会った仲間の顔を見て、うれしく思っている人も多いのではないのでしょうか。私も元気そうな皆さんの姿を見ることができ、うれしく思います。

さて、2学期始業式にあたり、次の新聞記事を紹介します。令和2年7月28日の朝日新聞の記事で、読者からの投稿欄「若い世代」に掲載されていたものです。

「先生の解説・脱線 授業は楽しい」 中学生 小林咲葵さん（東京都14才）

学校に行く意味についての声（3/20）を読んだ。私も教科書で学ぶことができるのに、どうして学校で授業を受ける意味があるのかと思っていた。だが先生のおもしろい解説がポイントだと気づいた。

歴史の授業で1184年の「宇治川の戦い」について勉強した。先生が「その時に、今井兼平は源義仲の首を敵に取らせず、自害するカッコイイ最期にさせてあげようとしたのに、義仲が躊躇（ちゅうちよ）している間に、敵に追い詰められて討ち死にしたんだよ」と教えてくれた。そうしたらクラスメートが「うじうじしてたから宇治川の戦いなんだよー」と冗談を飛ばした。

覚えにくいことも先生が話すストーリーで心に残り、それを生徒が冗談で応える。「せんせーい、脱線していますよー」。この脱線こそが授業の意味であり面白さだと思う。

皆さんも、授業中に先生から、教科書に書かれていない興味深いお話しやおもしろいエピソードを聞いて、授業の内容がより記憶に残ったということはありませんか。また、友達同士で教え合いをしたり、互いの考えを交流したりすることで理解が深まったということもあると思います。今日から授業が始まりますが、皆さんにはこれまで同様、「授業」にしっかり臨んでほしいと思います。新聞記事にある『学校で授業を受ける意味』について自分なりに考えてほしいのです。何せ、1学期の始めは全国一斉休業のため授業がなかったのですから…。これまで当たり前だと思っていた授業（＝日常）を大切に、2学期を有意義なものにしていきましょう。

2学期は、多くの行事が計画されています。3年生の修学旅行、1・2年生の学年活動、体育祭、合唱祭、新入大会…。これらにも全力で取り組み、皆さんが大きく成長する機会にしていきたいです。

充実した2学期になることを期待し、2学期始業式のお話しとします。

7・8月の活動より…

<決意発表式>

1・2年生は、今まで部活動をリードしてくれた3年生に対する感謝の思いと新チーム発足にあたっての決意を、3年生は、これまでの部活動の振り返りと今後の決意、1・2年生へのメッセージを発表しました。式では、入場行進（ユニホーム着用、吹奏楽部の演奏に合わせて）、各部（校外部を含む）からの決意発表、吹奏楽部演奏発表、全校応援などが行なわれました。六中生全員で今後に向けて頑張っていこうという雰囲気が醸成される式になりました。（実施日：7月31日）



<学校評議員会>

学校運営等に関するご意見やご示唆をいただきました。（実施日：7月31日）



（委員の皆様）

佐藤 耕一 様（六郷コミセン 館長） 須藤 昌志 様（塩井コミセン 館長）
金谷 恵一 様（広幡コミセン 館長） 尾形 仁 様（前父母と教師の会 会長）
井上 和弘 様（父母と教師の会 会長）

<あいさつ運動>

「父母と教師の会」育成研修部の皆様に実施していただきました。（実施日：8月18日）



早朝から ありがとうございます。